福岡教育大学大学院教職実践専攻年報　第13号　213-214（2023）

［課題演習概要］

通常学級における「ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」
―小学１年生の道徳科授業の実践を通して―

土　井　薫
Kaori DOI

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
小学校免許状取得プログラム

(2023 年 1 月 10 日受理)

キーワード：ユニバーサルデザイン，道徳

1　研究の目的

本研究の目的は，通常学級の授業にユニバーサルデザインの視点を取り入れることの有効性について明らかにしていくことである。道徳科の学習に，ユニバーサルデザインの視点である「シンプル」「クリア」「シェア」の３つの要件に加え,「ビジュアル」の要件を入れた４つの視点を取り入れた。そのユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践を踏まえ,子どもたちの学習中の様子,反応等を事前に作成した指導計画に基づき，振り返り，分析することを目的とする。

2　研究の計画

本研究は，ＴＡ実践インターンシップⅡの協力校の小学１年生の道徳科の授業実践を取り上げ，分析と振り返りを行った。授業実践を行う前に，学習指導案を作成するとともに，福岡市小学校特別支援教育研究委員会の平成 28 年度研究報告にある，ユニバーサル教育の視点にたった指導の計画を基に計画書を作成する。

その計画を基に，学習者である子どもたちの学習中の様子とワークシートへの記載の内容を分析した。

3　研究の内容

(1) 授業のユニバーサルデザインについて

授業のユニバーサルデザインとは,「教科教育と特別支援教育の融合を目指し，学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず，全員の子どもが，楽しく「わかる・できる」ように工夫・配慮された通常の学級における授業のデザイン（坂本 2014)」のことである。

また，授業のユニバーサルデザイン化の要件として，①「授業を焦点化（シンプルに）する」，②「授業を視覚化（ビジュアルに）する」，③「授業で共有化（シェア）する」ことの３つが不可欠であると桂（2011）は述べている。

ただし,昨今の小学校の通常学級では,通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の中で,「知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒は,8.8%に及ぶと報告されている。(文部科学省 2022)

このような状況に対して,一斉指導の中で多くの児童生徒の学びのニーズに応える必要があり,「クラスワイドな積極的行動支援(positive behavioral support)の取組」も必要であると竹下,大塚(2021)は述べている。

(2) 授業実践

単元	「ひつじかいとおおかみ」出典「小学 道徳」（光文書院）
実践日	令和４年 12 月 21 日（水）　２時間目
学習者	A 市立 B 小学校１学年２組
主題	こころのコントロール(内容項目 A 善悪の判断，自律，自由と責任)
ねらい	うそをついて人をだますことがなぜよくないかを理解し，嘘をつかずに生活しようとする。

授業では，A の項目の善悪の判断，自律，自由と責任の価値について追及する教材を使用した。授業の中に，ユニバーサルデザイン化の要点であ

る４つの視点を取り入れるとともに,個別の配慮を必要とする児童に対し,授業者が支援を行った。

a.「シンプル」の視点

「シンプル」とは，本時のめあてやねらい，発問などの情報を焦点化することである。学習内容と方法をわかりやすくする視点が求められる。教師の指示や発問や提示する資料の量などを調整，精選することが必要である。

この視点として，学習を焦点化できるように教材のどの部分に注目して読むのかを伝えた。また，学習中に役割演技をする際には，役割演技をする子どもには，演技をする視点や考えるポイントを伝えた。演技を見る子ども達には，演技を行う友達の言動を見て，共感できる部分や，そうでない部分を観察するよう，焦点化を行った。これにより,子ども達一人ひとりに適した発問の焦点化や,本時のめあての達成に繋げることができた。

ｂ.「クリア」の視点

「クリア」とは,授業展開の道筋を明らかにし,子どもたちが授業に見通しを持ちながら，学習に参加し理解を深められることである。

この視点として，授業展開の筋道を明確化できるように，学習の前に今日の流れを説明した。また黒板にも，流れが分かる掲示を行った。これにより，子ども達がめあてを軸に，学習を進め，発問の中から本時で学びたい価値を，考えることができていた。

ｃ.「ビジュアル」の視点

「ビジュアル」とは，思考や言語の情報を，絵や写真，図や動作に変え，またＩＣＴ機器を活用するなどして，視覚的に提示することである。

この視点として，資料の理解が容易に，また確かにできるように，紙芝居形式で教材を読み進めた。また,紙芝居は問題場面を理解できるように,資料として黒板に提示した。さらに展開部分では,登場人物の気持ちを考えることができるように,その役のお面をつけ演技をした。

ｄ.「シェア」の視点

「シェア」とは，授業者が意図的にペアないしグループ等を組み，話し合う場面を位置付けることである。すべての学習者である子ども達が発言する場を保証するとともに，子どもたちの考えや思いを共有し，共に学び合う視点が求められる。

この視点として，他者の意見や考えの交流を促すこと，また自身の振り返りに生かせるように,ペアで意見の交流を行った。

ｅ．個別の配慮の視点

Ａ児童は,外国にルーツを持ち,学習の支援を必要とする場面があり,クラスに在籍する学習支援員がサポートすることがある。現在は,国語の読み物教材や,算数の文章問題の読みなどで,学習支援員がサポートをしている。

本時では,授業者がＡ児の思いや考えを要約し,全体に共有を図る場面を設けたり,個別に文章の表現を伝え,平仮名等の文字の指導を行ったりした。

4　成果と課題

本研究の結果と課題として,授業の様子と,子ども達が学習中に取り組んだワークシートを踏まえ,ユニバーサルデザインの視点である４つの要点から述べる。

まず,役割演技を取り入れたことにより,演技をした児童も,演技を見ていた児童も新たな気づきをえたり,自身の考えをより深く考えていたりしていたことが,ワークシートの書き込み,学習中の発表から見て取れた。また,演技の時には,模範となる演示を適切に取り入れたり,見ている子どもたちに,演技をしていた子どもたちの考えや,思いを問う発問をしたりすることで,子ども達がさらに道徳的価値について考えることができたのではないかと考える。

個別の配慮として行ったＡ児への指導については,前回行った授業実践の時よりも,授業者が直接,指導を行ったことにより文字の間違いが減ったことと,問いに対する回答も前回より適切になっていることが成果として挙げられる。

しかしながら,今後の課題として,ユニバーサルデザインの視点を生かした授業を通して,学習者全員の学習参加率や学習の有効性を数値化し,学習活動の多様化を図ることが課題であると考える。

主な引用・参考文献

文部科学省　2022　通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な配慮を必要とする児童生徒に関する全国実態調査

竹下雅美,大塚玲　2021　小学校におけるクラスワイドな支援と個別支援を組み合わせた取組

坂本哲彦　2014　道徳授業のユニバーサルデザイン ー全員が楽しく「考える・わかる」道徳授業づくりー　東洋館出版社

桂聖　2011　国語授業のユニバーサルデザイン ー全員が楽しく「わかる・できる」国語授業づくりー　東洋館出版社

福岡市小学校特別支援教育研究院会　2016　平成 28 年度研究報告　特別な支援を要する子どもの学習指導法の研究 ー学習活動の工夫を通してー